報告

環境教育についての若干の考察

―環境意識・実態調査の解析を通して―

岡部　昭二*　塚田　苔生子**　三品　広美***
金城学院大学*　金城学院大学**　龍谷大学***

A Consideration and a Few Proposals on Environmental Education
―through the Consciousness and Fact-finding Survey on Environmental Problems―

Akitsugu OKABE*, Tamiko TSUKADA**, Hiromi MISHINA***
Kinjo University*　Kinjo University**　Ryukoku University***

（受付日　1995年11月6日・受理日　1996年7月9日）

1. はじめに

環境に関する意識・実態調査は、最近に至り、多数の報告がなされつつあるが、調査対象が環境のごく一部に限定されていたり、調査対象者が、消費者又は学生に限られていた。そこで著者等は、現在の主要な環境問題を広く摘出し、また、調査対象者を学生（男子及び女子並びに理系及び文系）と社会人女性とした。これを統計・解析し、得られた結果から環境問題の解決について、若干の考察を行うと共に環境教育の視点からアンケート調査の留意点及び実践に結びつく教育方法について考察した。

2. 環境問題についての意識・実態調査の概要

1. 調査目的

学生及び婦人に対して環境問題に関する意識・実態を調査し、その結果を統計解析し、以て学校、社会における環境教育の在り方を検討し、環境意識を環境を醸成するための実践行動に結びつけるための方策を探り、若干の考察を行うことにある。

2. 調査対象

理系男子
名古屋大学工学部41人、
名古屋大学農学部16人、
岐阜大学農学部18人、
信州大学農学部23人、
名城大学理工学部26人
小計　124人

理系女子
名古屋大学工学部29人、
名古屋大学農学部７人、
岐阜大学農学部45人、
信州大学農学部10人、
名城大学理工学部６人
小計　97人

理系学生（理系と略す）　小計　221人

文系男子
龍谷大学経営学部60人、
大阪経済大学経済学部・経営学部50人
小計　110人

文系女子
龍谷大学経営学部・文学部54人、
金城学院大学家政学部125人
小計　179人

文系学生（文系と略す）　小計　289人
学生計　510人

社会人女性Ａ（一般女性――愛知県、岐阜市、京都市）　計　177人

（問い合わせ先）〒463　名古屋市守山区大森　金城学院大学　岡部昭二

社会人女性B（消費者活動に参加している女性――愛知県）　計　62人

社会人女性　（婦人と略す）小計　239人

合計　749人

3. 調査方法：集合調査法及び郵便調査法

4. 調査時期：平成6年5月～11月

3. 調査結果と考察

紙数が限られているので、小論においては、すべての結論を記すことはできないため、触れていない部分については資料1、表5を参照されたい。

①容器・包装について

廃棄物問題を考えるとき、Reduce, Reuse, Recyclingの内で最も重要なものは、Reduceである。その市民活動の一環として広く行われているのは、店頭における過剰包装の辞退であり、買い物籠（袋）持参運動である。

先ず過剰包装を辞退した経験の有無については、学生の第一位は「たまにある」で33.3%、次いで「ほとんどない」が29.0%と過剰包装辞退については消極的な態度を示している。婦人は、「よくある」22.2%、「時々ある」31.5%、「たまにある」30.5%、「ほとんどない」14.6%で、よく実践しているといえよう。

買い物籠（袋）持参については、学生の各層すべては、「ほとんど持って行かない」、「持って行ったことがない」の順で、婦人は、「時々持って行く」、「ほとんど持って行かない」、「持って行くようにする」の順であった。買い物籠（袋）持参は学生31.7%に対し、婦人は55.2%で0.1%危険率で有意差が認められた。

②ゴミ・リサイクルについて

学生は、すべての種類のゴミに対し、地方自治体の責任で処理すべきであるとの考えを有し、自らの責任を回避している点が特徴的である。また、プラスチックゴミを古紙回収業者に出すという回答が5.87%もあり、ここにおいても生活者としての意識の低さが現れている。これに対し、婦人は、紙は回収業者や市民グループに、衣類は知人や市民グループに、また、家電は販売店にと適所への処理を行っている者が多い。

③リサイクルに関して最も環境に優しいと思う方法について

紙については、学生、婦人共約20%が紙ー燃やすー熱エネルギーが最善と考えており、「一旦溶かす等の処理をしてから再生する」との正しい理解は、婦人67.4%、理系62.4%であったが、文系は50%に満たなかった。

アルミニウムについては、理系の79.6%が再生と回答しているのに対し、文系、婦人Bは「洗浄などして再利用する」がそれぞれ10.7%、17.6%と多かった。これは、アルミ缶ならば「再生」が正解であるが、広くアルミ容器と解釈した場合、「再利用」も正解となり、素材だけからの設問でなく、具体的な製品による設問が望ましかった、といえよう。

次に、理系ー文系、男子ー女子、学生ー婦人の回答率に有意に高い解答率が認められたものを表1に示す。

表1　最も環境に優しいと思われるリサイクルの方法

環境に好ましいリサイクルの方法(4-1)	紙	アルミ	スチール	ビン	プラスチック	生ゴミ
一旦溶かす等の処理をしてから再生する	婦	◎理	男 婦	◎理	男	
洗浄などをして再利用する	学	婦	学		◎女	
焼却して熱エネルギーとして利用する		文 女				男
堆肥にして利用する	学					婦
その他	学	文 女	学			

有意差：　○：<0.1%　＿：<1%　無印：<5%

④環境に関する語句の内容まで理解しているかについて

リサイクルが最もよく知られているが、理系の76.3%に対し、文系の41.9%と大きな開きがあった。以下、ガレージセール、エコマーク、グリーンマーク、コンポスト、ボカシの順で、他の語句は、何れも5%にも満たなかった。なお、文系が理系を上回ったのは、環境コスト、リデュース及びリフューズの3項目だけであった。また、実践に関係する語句であるガレージセール、コンポストやボカシには婦人の高率が認められた（表2）。

⑤識別マークの理解度

すべての層において、アルミ缶、スチール缶、再生紙、プラスチック、その他の順である。知っ

表2　環境に関する語句の内容まで知っている率

	リサイクル	ガレージセール	エコマーク	グリーンマーク	コンポスト	ボカシ	リユース	環境コスト	リデュース	リフュース
理系(%)	76.5	39.8	39.4	27.6	19.0	10.4	10.4	8.1	3.2	1.4
文系(%)	41.9	28.7	28.0	26.0	8.3	10.0	3.8	13.8	4.5	4.8
男子(%)	53.8	35.0	44.0	37.6	10.6	14.5	9.8	21.8	7.7	7.3
女子(%)	59.4	32.2	23.6	17.4	14.9	6.5	4.0	2.5	0.7	0
学生(%)	56.9	33.5	32.9	26.7	12.9	10.2	6.7	11.3	3.9	3.3
婦人(%)	48.5	48.1	37.2	34.7	31.4	27.2	3.8	23.4	3.8	2.9

ている率は、一般に、婦人、理系の順に多い（表3）。これらの層は「素材」に対する関心が高い。他の層は素材に対しての関心が低く、漫然と使用していることがうかがわれ、身近なところからの環境教育の必要性が感じられる。また、プラスチックの識別マークが法律によって制定されたのはＰＥＴだけで、市民運動で回収する実績もほとんどみられない状況なので、婦人の17.2%、学生の8.8%が知っているに過ぎない。

⑥省エネについて

一般に婦人は省エネについてよく実践しているが、口火・種火のつけ放しが多かった。この項目については、理系は０で、研究実験などで火の扱いに注意している日常の習慣によると推察される。

エアコンについては、最小限に使用、が各層共第一位であり、男子を除いて過半数であった。次いで、快適な生活を送るため使用も仕方がない、が約２割であった。特徴的なことは、第一位の回答が、男子39.7%に対し、女子61.2%で0.1%危険率で有意の差があった。このことは、快適な生活を送るため必要との回答が、男子に20.1%（女子は12.3%で５%危険率で有意差）であったことと無縁ではなく、より一層の省エネに対する実践が望まれる。

表3　識別マークの理解度

	アルミ	スチール	プラスチック	紙
理系(%)	62.9	57.9	11.8	42.1
文系(%)	47.4	45.0	6.6	39.8
男子(%)	53.8	51.7	12.4	34.2
女子(%)	54.3	49.6	5.8	46.4
学生(%)	54.1	50.6	8.8	40.8
婦人(%)	66.5	60.3	17.2	53.1

他に、0.1%危険率で有意差が認められたのは、「できるだけ公共交通機関を利用」が文系＞理系及び女子＞男子、「やむを得ずマイカー（オートバイを含む）を利用」が婦人＞学生、「シャワーの流し放しや、シャンプーの回数を減らす」が婦人＞学生、「ストーブの反射板やエアコンのフィルターをこまめに掃除する」が婦人＞学生、「冷蔵庫の詰め込み過ぎや開閉回数を減らす」が婦人＞学生、などが主なものであった。理系で公共の交通機関の利用が少ないのは、大学立地条件や実験により帰途が遅くなることがあるとみられる。婦人にマイカー使用が多いのは、夫や子供の送り迎え等も含め、日常生活にこれだけは不可欠と考えていると推察される。

⑦環境問題意識について

「このままでは地球が危ないので、今のうちに対策を講じておかなくてはいけない」については、0.1%危険率で文系＞理系、しかも「もうどうにもならない、なるようになる」は、0.1%危険率で理系＞文系という結果になった。実践活動の時間的余裕を持たないこともあろうが、意外に冷淡な感じがする。

⑧深刻と思われる環境問題

「最も深刻と思われる」に１、「深刻に思われる」に0.5を与え、14項目の和を算出すると、①文系4.39、②男子4.35、③学生4.29、④女子4.23、⑤婦人4.21、⑥理系3.91になり、理系が低く、やや意外な結果を得た。この原因としては、理系はオゾン問題に関しては、深刻に思う率が最も低く、文系に比し15.3%も低い事実が一因となっていると考えられた。

各項目について、上述の方法によって%を求めたものが表４、図１である。

表4　深刻と思われる環境問題

	森林破壊	ゴミ問題	オゾン層破壊	温暖化	大気汚染	酸性雨	水質汚染	人口問題	生態系破壊	砂漠化	資源枯渇	土壌汚染	南北問題
理系(%)	49.1	41.0	43.2	33.5	26.7	28.1	29.4	40.3	32.1	31.0	24.0	20.8	14.3
文系(%)	51.7	54.7	58.5	40.1	39.8	36.9	32.0	26.5	24.2	24.9	20.4	20.2	9.2
男子(%)	49.6	40.8	48.7	36.3	35.5	36.5	31.8	41.5	27.8	29.9	20.9	20.7	13.0
女子(%)	51.4	55.4	54.5	38.0	33.0	30.1	30.1	24.8	27.5	25.5	22.8	20.3	10.0
学生(%)	50.6	48.7	51.9	37.3	34.1	33.0	30.9	32.4	27.7	27.5	22.0	20.5	11.4
婦人(%)	48.3	59.2	49.6	30.1	42.9	34.1	38.9	20.9	27.8	15.7	18.6	25.1	9.8

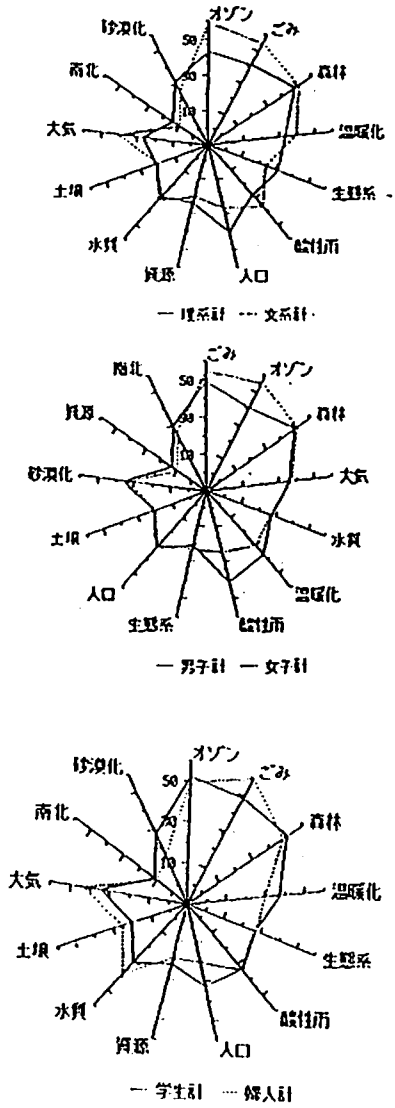

図1　深刻と思われる環境問題

理系及び男子は、万遍なく回答しているが、理系は文系に比し、酸性雨、大気汚染が著しく低い。文系及び女子は、マスコミによる影響が大きいことが窺われる。中でもオゾン層破壊に対する関心の高さは、ＵＶカット商品の氾濫によるものであろう。

他方、婦人は、生活密着型で、ゴミ問題のほか、大気汚染、水質汚染、土壌汚染など生命に直接係わりのある問題には、極めて関心が高いが、人口問題、砂漠化では、学生の６割で、１％危険率で有意差があり、温暖化や資源枯渇のような長期的展望を有する事項にも関心が薄いといえる。

⑨環境保全について行政に望むこと

学生・婦人共「法の整備」が約60％あり、「リーダーの養成」は、約10％で最も少ない。

⑩環境保全についての企業のあり方

「企業責任として環境保全を最優先した製品開発・商品販売をすべきである」が、学生74.9％、婦人77.0％で最も多く、「企業として、環境保全のために自社が何をしているかを、もっとＰＲすべきである」は、学生28.6％、婦人21.3％で共に最低であった。

⑪アンケートの結果の集約

(1) 理系については、日常、環境問題に意識的に取り組んでいることは評価できるが、反面、「環境はなるようになる」との意識が他にくらべて多い。足元からの行動と地球規模の環境保全との結びつきを考える必要があると思われる。

(2) 文系については、環境問題に対して深刻に受け止め、今のうちに対策を、との考えは最高の94.5％を示した。しかし、深く追求する姿勢に乏しく、意識と実践とのギャップが見受けられるので、これを埋めていくのが今後の課題である。

(3) 男子は知識はあるが、実践面では未だしの感が強い。

(4) 女子は日常的な実践面においては、ほぼ行われているが、ＴＶのつけ放しなど、やや快楽追求優先の安易な面も垣間見られる。

(5) 婦人は日常の身近な実践活動においては見るべきものがある。今後は、地球規模のmacroな問題にも関心を持つ必要がある。

以上、紙数の関係からアンケートのうちから主なものについて検討した。なお、アンケートのうち、マトリックスの回答を除き、各層の第一位のものを表５にまとめた。

表5　アンケートの各設問において各層の第１位のもの

No.	理系	文系	男子	女子	学生	婦人
1－1	カ 33.0	ア 37.3	カ 32.9	ア 34.7	ア 29.4	カ 26.8
1－2	ア 76.0	ア 67.5	ア 74.4	ア 68.5	ア 71.2	ア 69.9
2－1	ウ 39.8	ウ 36.7	ウ 42.7	ウ 34.1	ウ 38.0	エ 59.4
2－2	ウ 29.4	ウ 36.0	ウ 29.5	ウ 36.6	ウ 33.3	イ 31.8
2－3	ア 46.1	ア 45.7	ア 46.2	ア 45.7	ア 45.9	ア 63.2
2－4	ウ 37.1	ウ 31.5	ウ 28.2	ウ 38.8	ウ 33.9	イ 32.6
3－1	ア 80.1	ア 63.3	ア 60.7	ア 79.0	ア 70.6	ア 97.1
3－3	エ 10.0	エ 15.9	エ 15.8	エ 11.2	ア 13.3	ア 2.1
4-2-◎	ア 76.4	ア 41.9	ア 53.8	ア 59.4	ア 56.9	ア 48.5
4-3○	キ 49.8	ア 41.5	ア 46.6	キ 47.5	キ 43.5	ア 46.0
4－4	ア 62.9	ア 47.4	ア 53.8	ア 54.3	ア 54.1	ア 66.5
4－5	エ 54.8	エ 43.6	エ 47.9	エ 48.9	エ 48.4	オ 59.4
5－2	オ 52.5	オ 50.5	オ 39.7	オ 61.2	オ 51.3	オ 60.2
5－3	ア 35.3	イ 54.7	ア 32.5	イ 53.3	イ 42.5	ア 42.7
5－4	ウ 28.5	ウ 50.5	ウ 23.9	ウ 55.4	ウ 41.0	ウ 77.4
6－1	ア 79.2	ア 94.5	ア 84.2	ア 91.0	ア 87.8	ア 91.6
6-2-◎	ウ 24.4	ア 37.7	ウ 26.9	ア 33.3	ア 29.4	イ 32.2
6-2○	イ 50.2	ウ 42.6	ア 47.8	イ 52.9	ウ 45.5	イ 54.0
6-3-1	ア 8.1	ア 13.5	ア 12.0	ア 10.5	ア 11.2	ア 20.9
6-3-1	ア 27.6	ア 21.1	ア 15.4	ア 31.2	ア 23.9	ア 51.9
6-3-2	オ 1.4	オ 6.6	オ 7.7	オ 2.5	オ 4.9	オ 9.2
6-3-2	ウ 11.3	オ 15.9	ウ 13.2	オ 33.0	オ 21.9	オ 40.2
6－3	ウ 4.1	エ 15.6	エ 26.1	エ 9.8	エ 17.3	ウ 5.9
6－4	エ 27.1	エ 57.1	ア 63.2	エ 60.1	ア 58.2	ア 63.2
6－5	ア 32.6	ア 81.7	ア 65.4	ア 83.0	ア 74.9	ア 77.0

4. 提言

アンケートの結果及び現下の状況を考察し、環境教育の視点に立ち、各界に次の事項を提言する。

1. 生活者に対して
   ①行政依存を脱却し、自主的に行動する。
   ②過剰・不要な包装は断り、使い捨て商品は買わない。リサイクル品を使用する。
   ③省エネルギーに心掛け、実践する。
   ④グローバルの視点を持つ
2. 行政に対して
   ①リサイクル品を推奨し、リサイクルシステムを確立する。
   ②表示（材質及び再使用・再利用・焼却・埋立等の区別について）指導する。
   ③過剰・不要な包装の自粛を指導する。
   ④広告について指導する。
   再生紙（混入率明記）利用の義務付け、樹脂加工紙の廃止、窓付き封筒の廃止
   ダイレクトメイルの拒否方法の周知徹底
3. 企業に対して
   ①リサイクルしやすい商品をつくる。
   ②材質・処理方法を表示する。
   ③商品寿命・部品保有期間を長期化する。
   ④ゴミ減量を推進する。
4. マスコミに対して
   ①リサイクルの必要性について、繰り返し分かりやすく解説する。
   ②環境に配慮した製品を紹介する。
   ③地方自治体や住民の環境問題への取り組みを紹介する。
   ④単発的な報道に留まらず持続的に報道する。

5. 学校教育における環境教育について

義務教育は、すべての人が学習する機会を有するということで極めて重要である。しかも感受性の豊かなこの期における実践的な体験は、卒業してからも心に深く刻まれる。大学で環境問題のゼミを希望する動機に、この時期に牛乳パックから葉書を作成したとか焼却施設を見学したなどが挙げられることも多い。

義務教育における環境教育は、身近かなものを対象に「印象付ける」ことが必要に思われる。そのためには、次のようなことが考えられよう。

①野外調査

サワガニ、カワゲラ類、イトミミズ等16種の生物の存在を調べ、川の汚れを調査する野外調査が、環境庁により毎年全国的な規模で行われているので、それに参加することによって、他の地域との比較検討ができる。また、簡易包装を心掛けているか、発泡スチロールトレイを必要以上に使用していないか等ゴミ減量の推進をしているかを店毎に評価する、あるいは快適な街造りへの取り組みの様子を調査するなど、多くの課題を考えることができる。

②現地の見学

例えば、障害者などがベルト上を流れるリターナブル瓶を洗浄したり、仕分けしていく現場を見学する、ゴミ処分場に行き、どのようなものがどれほどの量捨てられているかを実際に目で確かめる。また、アイガモ農法や有機栽培の現場を見る、酸性雨による被害状況を見る、などが考えられる。

③実験・実習

プラスチックの成分として、塩化水素やダイオキシンの生成原因となる塩素を含むかは、銅線さえ用意すれば、Beilstein法ーー銅の炎色反応ーーにより瞬時にして判定できる。ポリエチレンパックに入っている試薬と水の成分とを反応させて比色する「パックテスト」は、河川水や酸性雨のｐＨ、水質検査に広く用いられている。更に、大気中のNO_2は、「天谷式ユニメーター」などがあれば簡易に調査できる。また、廃棄物処理まで含めた調理実習により、食・農・廃棄物についてより深く学ぶことができる。

④展示会

湾岸戦争によって引き起こされた膨大な流出原油にまみれ、真っ黒になった鵜の写真を見ることは、何冊もの環境書を読むより環境問題の重要さを認識させることができるであろう。また、戦争が環境の最大の破壊者であることも素直に読み取れることであろう。

⑤テレビ・ビデオ

身近かに見ることができない場合は、テレビ・ビデオの利用がある。ドイツの「黒い森」(Schwarz Wald) の枯死の状態を見れば、酸性雨の影響として「頭の毛が抜ける」程度の理解しか答えられない大学生より深い理解が得られるはずである。

6. アンケート調査上の留意点

1993年７月、金城学院大学、龍谷大学、大阪経済大学、京都短期大学計380名の調査において、「プラスチックの識別マークを知っている」とする者は、14名であったが、次の設問で「それでは、１の数字がついているプラスチック」を問うたところ、正解者は僅か１名に過ぎなかった。身近なものであっても環境意識を有していないと見過ごすことが多い。また、本学会の発表において触れたが、「フリー・マーケット」の意味について書かせたところ、私大２校の家政学部230名の正解率は36.1％であった。しかし、その英名を書かせたところ、正解者は皆無であった。ちなみに正解は、flea market「のみの市」の意である。更に1995年５月の金城学院大学家政学部の調査で、酸性雨の原因物質の例を書かせたところ、回答者424名中ＳＯx（硫黄酸化物）が16名、ＮＯx（窒素酸化物）が14名という悲惨な結果が得られた。多くの者が二酸化炭素と回答したのである。これは、地球温暖化との混同によるものといえよう。

以上の事実から、皮相的な知識では環境問題を認識することはできない。したがって、正しく理解していなければ回答できないようなアンケートを作成することが重要である。アンケート実施の目的は、単に学生の意識の実態を把握するにとどまらず、学生への問題提起の意味を有すると考えるからである。

7. おわりに

アンケートの目的は、得られた結果を基に正確な知識を与え、更に行動への動機付けを意図するものであるが、それと共に学生に環境問題を認識させるには、小論文を書かせ、それをもとに討論させることが重要であると思う。日頃受動的にしか学修できない者も主体的に取り組ませるとかな

りのものを作成することが多い。しかも討論によって、仲間と共有した知識は、単なる知識にとどまらず、実践への潜在的な力となり得ると思われるからである。

以上、幾つかのアンケートに取り組み、学生との話し合いの場を通して得た経験等を基に環境教育に対する小論を披瀝した。

終わりに臨み、本アンケートの実施にご協力いただいた、戸苅進名城大学名誉教授、戸松修岐阜大学教授、龍谷大学大西謙、竺文彦両教授他の各氏に深甚な謝意を表する。

資料1

環境アンケート

年齢(代)：＿＿＿＿　性別：男，女　職業：学生，有職（フルタイム，パート），その他

購買行動について

1－1、あなたが使うものを買う時、どのようなことを考えながら商品を選びますか。

主なことから順に、5つまでお答え下さい。

ア　外観　イ　広告　ウ　評判　エ　値段　オ　表示内容　カ　実用性　キ　店の姿勢

ク　メーカーの姿勢　ケ　資源の有効利用　コ　環境汚染　サ　その他（　　）

1、＿＿＿＿　2、＿＿＿＿　3、＿＿＿＿　4、＿＿＿＿　5、＿＿＿＿

1－2、贈り物を買う時、どのようなことを考えながら商品を選びますか。

主なことから順に、5つまでお答え下さい。

ア　先方の好み　イ　外観　ウ　広告・知名度　エ　値段　オ　表示内容　カ　実用性

キ　店の知名度　ク　ブランド名　ケ　資源の有効利用　コ　環境汚染　サ　その他（　　）

1、＿＿＿＿　2、＿＿＿＿　3、＿＿＿＿　4、＿＿＿＿　5、＿＿＿＿

2－1、贈り物を受けた時、どのようにお考えですか。

ア　美しい立派なものには夢がある　イ　多少見栄えするものが良い　ウ　見栄えは気にしない

エ　容器・包装ばかり立派なものには腹がたつ　オ　その他（　　）

2－2、過剰な包装を辞退したことがありますか。

ア　よくある　イ　時々ある　ウ　たまにある　エ　ほとんどない　オ　その他（　　）

2－3、容器・包装についてどのようにお考えですか。

ア　簡易なものにしてほしい。

イ　リターナブル（再利用）や詰め替え等に努力してほしい。

ウ　デポジット方式（販売代金に容器代を預かり金として含めておき、容器を返せば容器分の現金を返却するという方式）を確立してほしい。

エ　もっと見栄えの良いものにしてほしい。

オ　今のままで良い。　カ　その他（　　）

2－4、買い物をする時、買い物カゴや袋を持って出かけますか。

ア　持って行くようにしている　イ　時々持って行く　ウ　ほとんど持って行かない

エ　持って行ったことがない　オ　その他（　　）

ゴミ・リサイクルについて

3－1、あなたはゴミや不用品を分別処分していますか。　　ア　はい　　イ　いいえ

3－2、「はい」と答えた方にお尋ねします。どのような方法で処分していますか。

方法が幾つかある場合は、主なものに●を、それ以外には○を付けて下さい。

	紙	アルミ	スチール	ビン	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	生ゴミ	衣類	家電	家具	その他
行政の回収に出す										
販売店の回収に出す										
市民ｸﾞﾙｰﾌﾟ等に出す										
回収業者に出す										
ﾌﾘｰﾏｰｹｯﾄに出す										
知人に譲る										
家で処分する										
その他										

3－3、「いいえ」と答えた方にお尋ねします。あてはまるところに○を付けて下さい。

ア　行政が指導してくれれば、それに従って協力する。　　イ　見返りがあれば協力する。

ウ　時間がない。　　エ　家族がやってくれる。　　オ　全く関心がない。　　カ　その他（　　）

4－1、リサイクルに関して、最も環境に優しいと思う方法のところに○を付けて下さい。

	紙	アルミ	スチール	ビン	プラスチック	生ゴミ
一旦溶かす等の処理をしてから再生する						
洗浄などをして再利用する						
焼却して熱エネルギーとして利用する						
堆肥にして利用する						
その他						

4－2、次の項目のうち、言葉だけ知っているものには○を、内容もよく知っているものには●を付けて下さい。

ア　リサイクル　　イ　リユース　　ウ　リデュース　　エ　リフューズ　　オ　ガレージセール

カ　コンポスト　　キ　エコマーク　　ク　ボカシ　　ケ　グリーンマーク　　コ　環境コスト

4－3、空ビン用の回収箱に入れてはならないガラス類について、知っていれば記入して下さい。

4－4、次の項目について、識別マークを知っているものには○を付けて下さい。

ア　アルミ缶　　イ　スチール缶　　ウ　プラスチック　　エ　再生紙　　オ　その他（　　）

4－5、リサイクルについて行政に何を望みますか（いくつでも）。

ア　法の整備　　イ　常設の展示・情報交換センター（コーナー）の設置　　ウ　リーダーの育成強化

エ　リサイクルに取り組んでいる団体への物的・経済的援助　　オ　教育・ＰＲ等　　カ　その他（　　）

エネルギー問題について

5－1、使用していない時、付け放しに注意していますか。該当するところに○を付けて下さい。

	照明	テレビ ＣＤ等	エアコン	扇風機	ﾊﾟﾈﾙﾋｰﾀｰ ストーブ類	ﾎｯﾄｶｰﾍﾟｯﾄ・ﾏｯﾄ ｺﾀﾂ・ｱﾝｶ・電毛布	口火 種火	その他（　　）
付け放しはしない								
ほとんどしない								
時々付け放しする								
よく付け放しする								

5－2、エアコン使用について、どのようにお考えですか。

ア　快適な生活を送るために、ぜひ必要である。　　イ　快適な生活を送るため使用しても仕方がない。

ウ　作業能率を高めるため、ぜひ必要である。　　エ　作業能率を高めるため使用しても仕方がない。

オ　温度コントロールをしながら最小限の使用にすべきである。

カ　できるだけ除湿・送風にすべきである。　　キ　使用すべきではない。　　ク　その他（　　）

5－3、利用している交通手段についてお答え下さい。

ア　できるだけ徒歩または自転車を利用　　イ　できるだけ公共機関を利用

ウ　やむをえずマイカー（オートバイを含む）を利用

エ　便利なのでマイカー（オートバイを含む）を利用　　オ　その他（　　）

5－4、省エネルギーのために実行していることに○を付けて下さい。

ア　シャワーの流し放しや、シャンプーの回数をできるだけ減らす。

イ　入浴はできるだけ家族が続けて入るようにしている。

ウ　夏は部屋の通風を良くする、冬は太陽光をできるだけ取り入れるなど、自然の恵みを利用している。

エ　断熱材を使う、冬期カーテンやジュウタンを厚手にするなどして、断熱を心がけている。

オ　ストーブの反射板やエアコンのフィルターをこまめに掃除する。

カ　冷蔵庫の詰め込み過ぎや、開閉回数を減らす。

キ　その他（　　）

環境問題について

６－１、環境問題についてどのようにお考えですか。

ア　このままでは地球が危ないので、今のうちに対策を講じておかなくてはならない。

イ　一部では環境破壊が進むかも知れないが、地球の自浄作用で回復するのであまり心配しなくてよい。

ウ　マスコミや世間が騒ぐだけで私には関係ない。

エ　もう、どうにもならない。なるようになる。

オ　その他（　　）

６－２、次の環境問題のうち、深刻だと思うものに()を、その中で最も深刻と思われるものには◎を付けて下さい。

ア　オゾン・ホール　イ　ゴミ問題　ウ　森林破壊　エ　温暖化　オ　生態系破壊

カ　酸性雨　キ　人口問題　ク　資源枯渇　ケ　水質汚染　コ　土壌汚染　サ　大気汚染

シ　南北問題　ス　砂漠化　セ　その他（　　）

６－３、生活排水について、注意していることがありますか？　ア　はい　イ　いいえ

「はい」と答えた方は、心がけていることに○を、特に留意していることには◎を付けて下さい。

① 食器や鍋の油汚れは　ア　ふき取ってから洗う　イ　合成洗剤で洗う　ウ　石鹸で洗う

エ　熱湯で洗う　オ　その他（　　）

② 洗濯には　ア　湯を使用　イ　水だけ使用　ウ　合成洗剤を使用　エ　石鹸を使用

オ　洗剤・石鹸は汚れに応じて、できるだけ少量を使用　カ　その他（　　）

「いいえ」と答えた方は、その理由をお答え下さい。　ア　面倒だから　イ　全く関心がない

ウ　関心はあるが時間がない　エ　自分で洗わない　オ　その他（　　）

６－４、環境保全について行政に何を望みますか（いくつでも）。

ア　法の整備　イ　常設の展示・情報交換センター（コーナー）の設置　ウ　教育・ＰＲ等

エ　環境問題に取り組んでいる団体への物的・経済的援助　オ　リーダーの育成強化

カ　その他（　　）

６－５、環境保全に対する企業のあり方について、どのようにお考えですか（回答は２つまで）。

ア　企業責任として、環境保全を最優先した製品開発・商品販売をすべきである。

イ　企業は、収益の一部を環境保全のために拠出すべきである。

ウ　これからの企業は、環境重視の姿勢を示さないかぎり、生き残れない。

エ　企業として、環境保全のために自社が何をしているかを、もっとＰＲすべきである。

オ　その他（　　）

６－６、他に環境問題についてお考えがあれば自由に書いて下さい。　ご協力ありがとうございました。